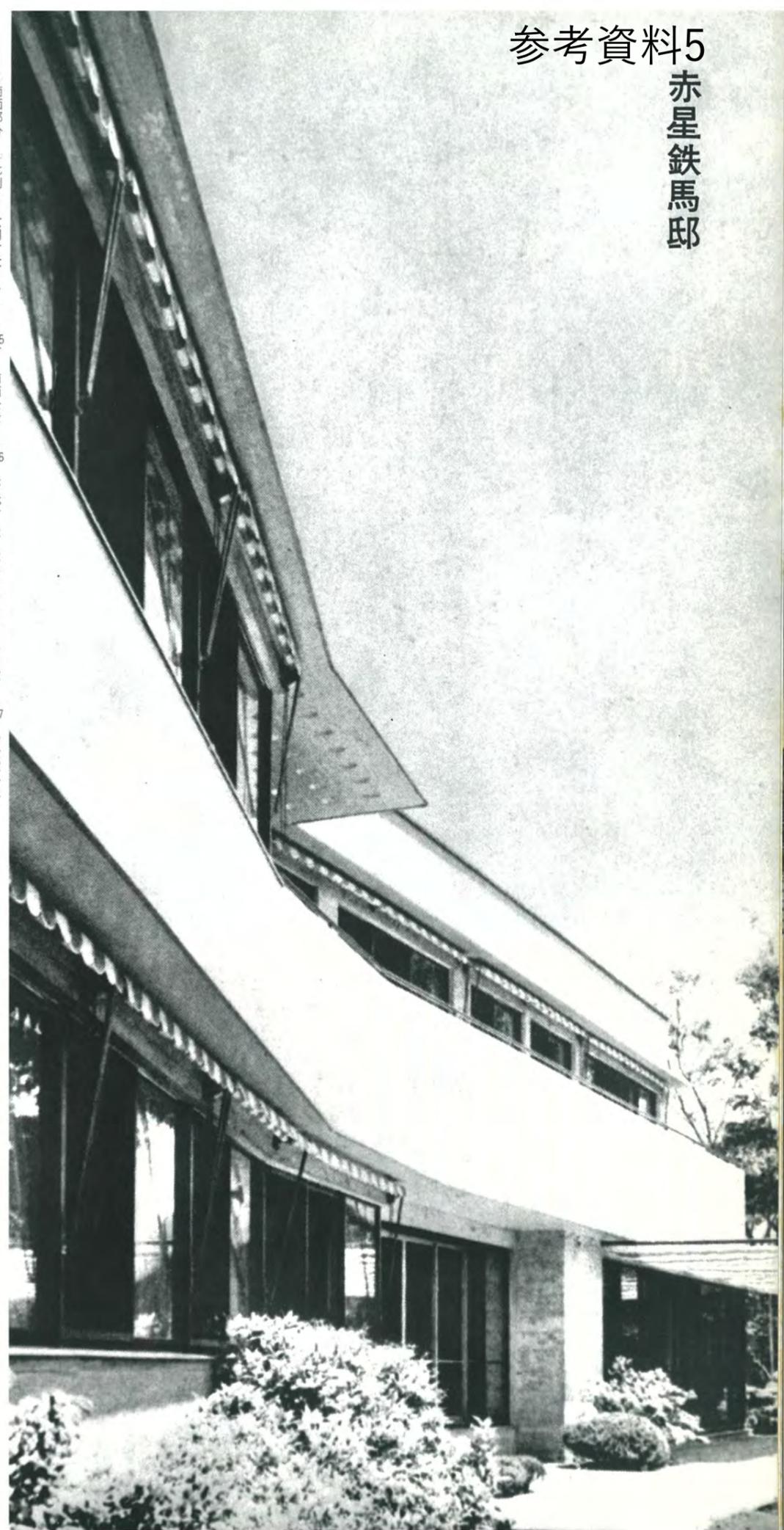


参考資料5
赤星鉄馬邸

◁南面部分 ▷北側より玄関付近をみる p115下 南面全景 p116 夫人室 鏡に写っているのは子供室 p117 階段室外観

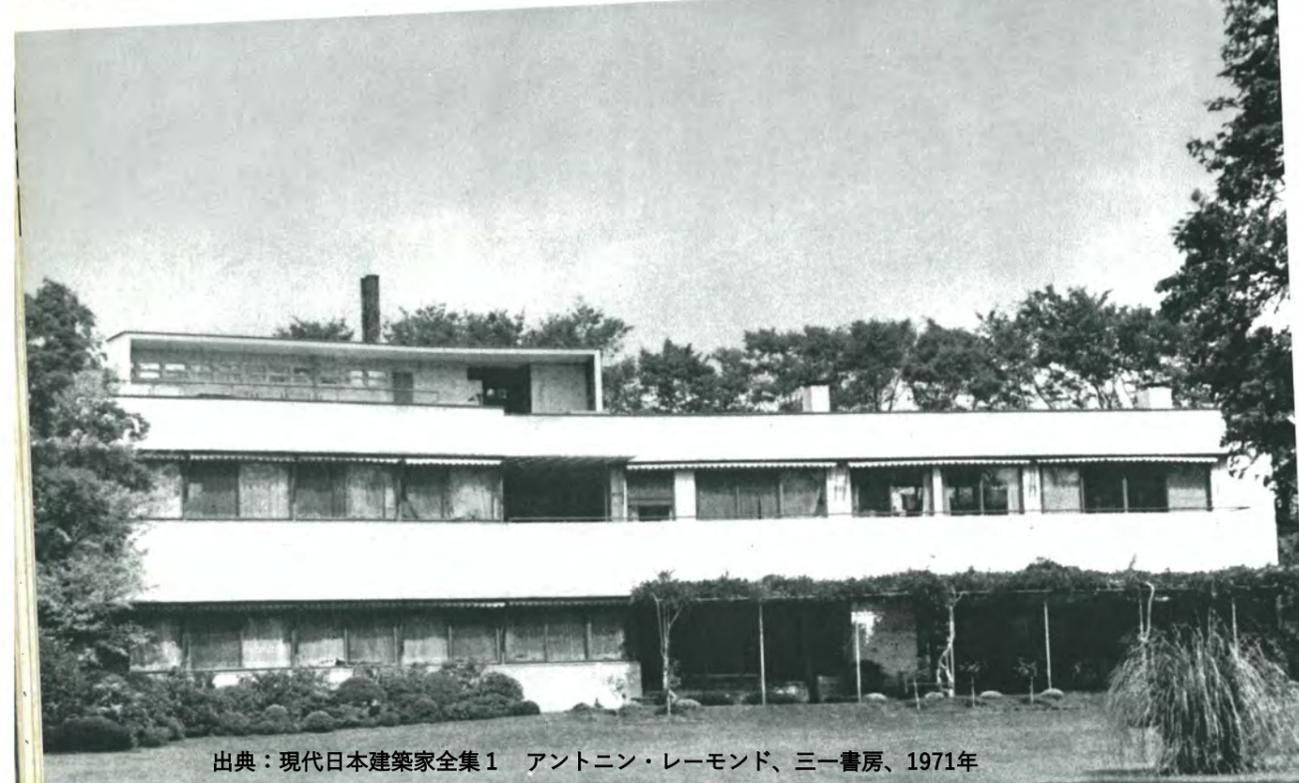
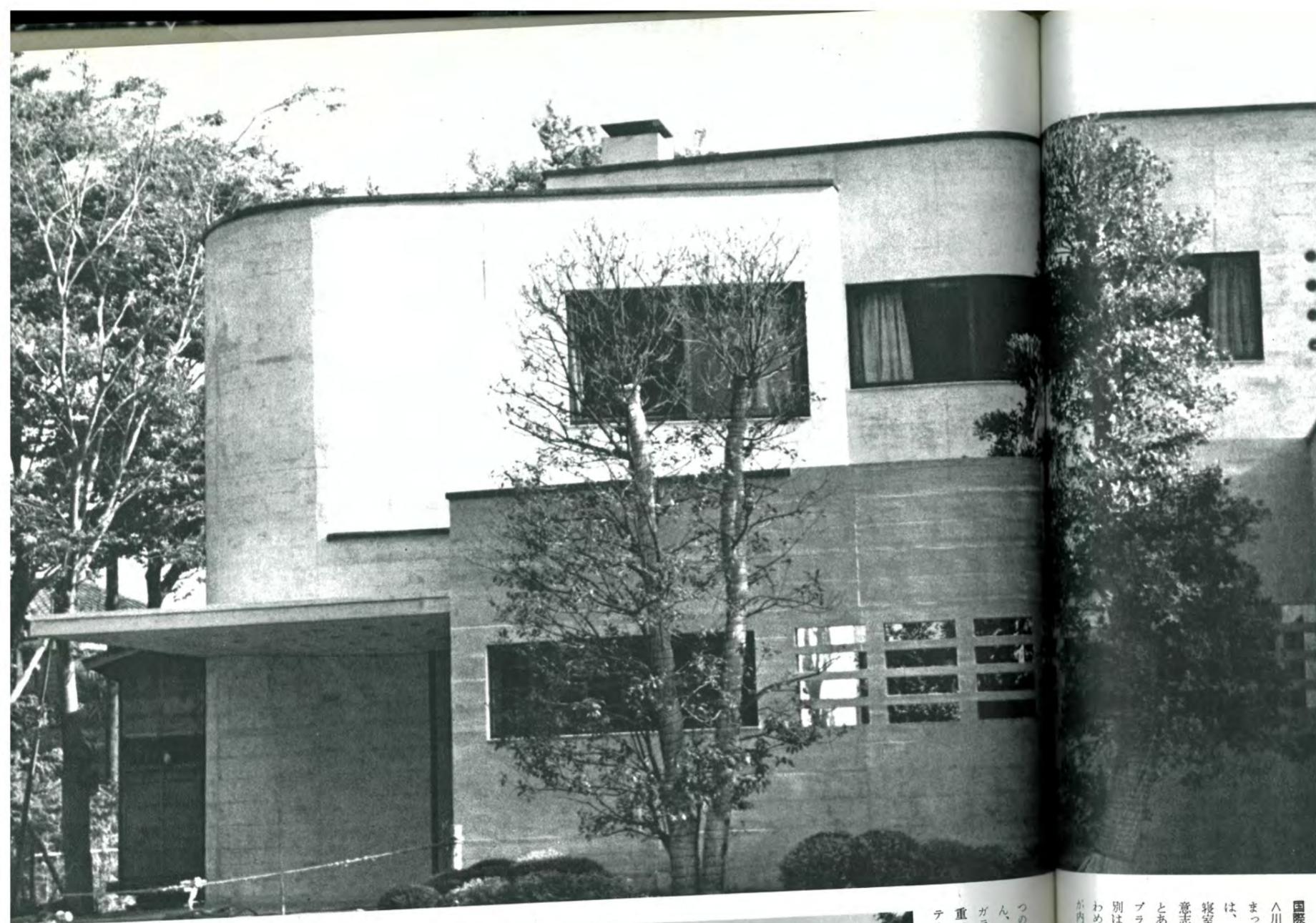


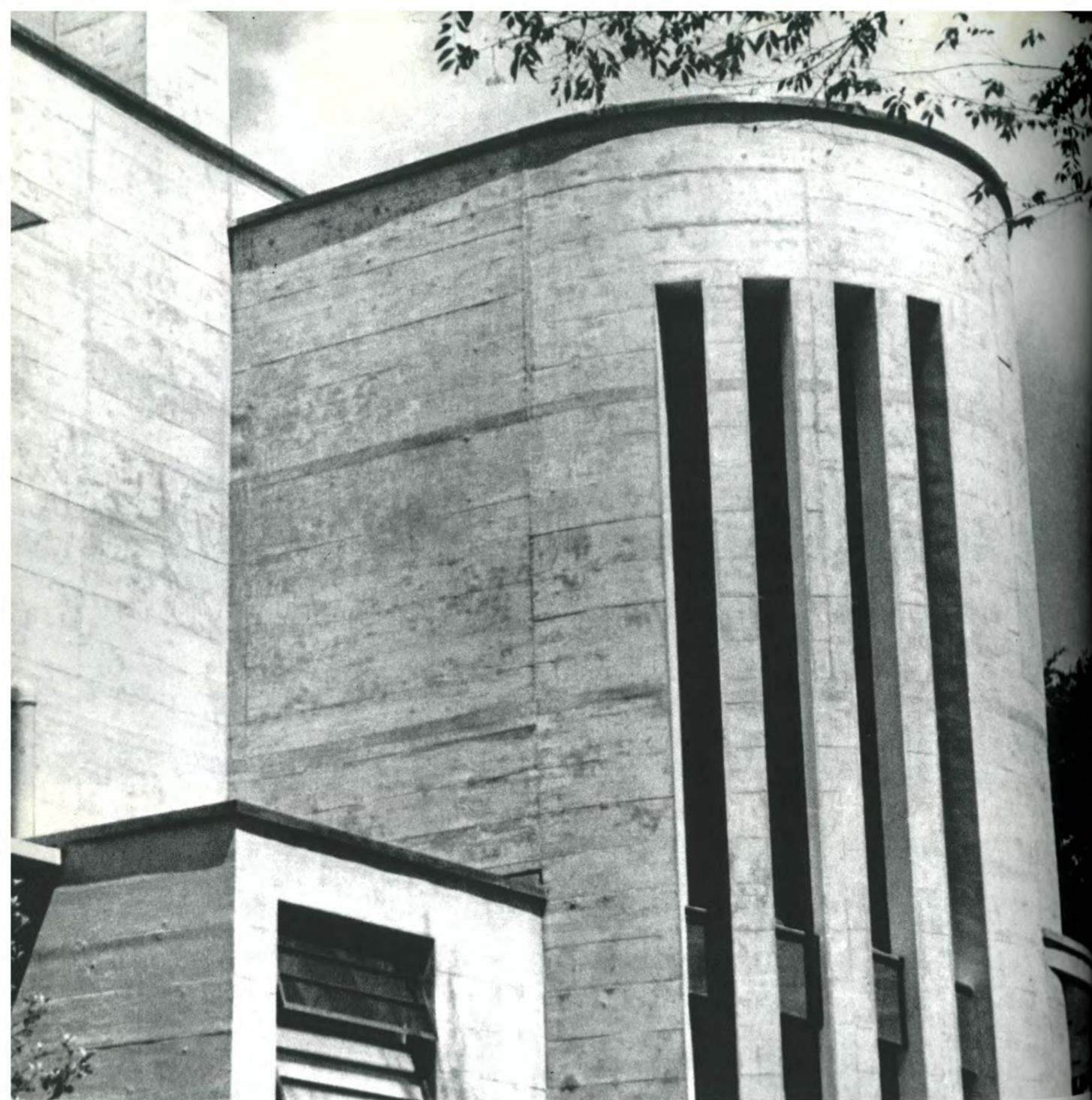
国際レベルへ
 八川崎邸と同年、やや遅れてデザインが始まった。この住宅の特殊条件は八川崎邸とは、やや意味が違ふ。平面図から分るよう寝室の数が非常に多いことであり、家父長の意志が貫徹し、一家を預る婦人の位置が歴然とあらわれていることである。
 プライベートな区域や、サービスの区域の区別は、この東西に長い平面の中で機能上、きわめて明確になっている。この点八川崎邸が内庭を中心とした八階建てであるのにく

らべて、後のハレーモンド・スタイルVの平面を築くための下地となった。つまり、根の木のある畦井沢のA足立邸Vにあらわれたような、主空間を南側に、サービス空間は各々独立させて北側に附属させた計画に似ている。
 A東京ゴルフクラブV以来、しばしばあらわれるコルビュジェのスタイル。A赤星邸Vに見られるのも自由なびのびとした、同じスタイルであるが、三〇米に及ぶ長い連続した水平面と深い日陰を確保する点、そこには

つの特徴がみられるのは重要である。もちろん、円形の階段室だとか、北面にあらわれるガラスブロックの丸い穴、屋上の横長の積み重なった穴などに、指摘できるA国際派的デザインVがみられる。しかし機能化したサー

ビス部分の突出や、やや中央で折れながら平気で長く延長された平面、開放的にしかも連続してつながる幾つかの個室群、この中に過去の断続がみられる。それに加えてこの切れの良い姿体。ここにAマスの強さVと、





- 一階平面図
- 1 玄関 2 ホール 3 居間 4 食堂 5 和室 6 夫人殺室
 - 7 子供室 8 倉 9 納戸 10 衣裳室 11 浴室 12 内
 - 玄関 13 客間 15 配膳室 16 台所 17 使用人室 18 洗濯場
 - 19 勝手口 20 パティオ 21 テラス

△水平の強さVをはっきり対比させようとする意志がある。
 コルビュジエのスタイルは定着したように見えながら、結局、将来のレーモンドの幾多の作品にあらわれるような一つの方向がもはやあらわれているのである。△川崎邸Vは実りであり円熟である。△赤星邸Vに見られるのはその脱却の姿勢であり、建築の訴える△強さへの再帰Vとも考えられる。

